

## 税金のあり方を考えること

山梨市立山梨南中学校 3年 石井 裕乃

私は山梨県に住んでいます。山梨県には良いところがたくさんあります。自然がとても豊かで、特にミネラルウォーターは全国シェアの四割を占める一大生産地です。他にも桃やぶどうが豊富に採れたり、富士山も綺麗に見られたりします。そんな山梨県ですが一つ不便な点があります。それは公共交通機関が少なく、車がないと生活が成り立たないことです。中学生の私はどこか遠出するのに不自由な思いをすることがあります。では、なぜ山梨県は公共交通機関が少ないのか。それは人口が少ないため集められる税金も少なくなってしまうからです。このことを知り、私は山梨県の税金について調べてみようと思いました。

私たちの健康で豊かな生活は、水道や道路などの社会資本整備、年金や医療などの社会保障福祉、教育や警察、消防といった公的サービスによって大きく支えられています。しかし、このサービスの提供には多額の費用がかかります。こうしたサービスを誰もが公平に受けるためには、私たちが納める税を財源とする必要があります。みんなが互いに支えあい、共によりよい社会をつくっていくためには、この費用を広く公平に分かちあうことが大切です。そんな「社会の会費」となるものが税金です。

そんな税金の集め方は様々ですが、今、山梨県で話題となっているのが「ミネラルウォーター税」というものです。「ミネラルウォーター税」とは山梨県で導入が発案されている課税制度であり、県内でミネラルウォーターを採取している業者への課税を行おうというものです。ミネラルウォーター税を導入することのメリットは長年にわたって厳しい状況が続いていた山梨県の財政が、安定して税収を確保することができます。そうすることで、山梨県の歳入総額の八・七パーセントを占める県債を減らすことができるかもしれません。デメリットとしては、ミネラルウォーター税による課税分が価格に転嫁することが行われ、販売価格が上がることにより、間接的に私たち消費者に影響を与える可能性があることです。

少子高齢化が急速に進み、私たちは新たな税のあり方を考えることが求められています。そこで私は、歳出面を見直すとともに消費税や所得税などの固定観念にとらわれない税の歳入構造を考えていくことが大切だと思います。山梨県のミネラルウォーター税のように地域の特色を活かした税を導入し、これからの税の課題に向きあっていくべきだと思います。今の日本の税について知り、今後のあり方について考えを深めていくことが、次の世代を担う私たちの責務であると思います。